

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成27年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、主治医が毎日往診し、24時間看護師が常駐することで医療体制を充実させています。また、終身介護を前提とした運営を行っており、希望される場合は看取りも行います。細目にバイタル測定を行い、栄養バランスに気を配った食事を提供するなど、利用者一人ひとりの日々の健康管理を徹底し、利用者やご家族に安心をお届けできる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所近くにある診療所の院長である法人代表者は、地域医療に大変積極的であり、事業所においても看取りの体制整備に力を入れている。看護師は24時間体制で常駐しており、介護職員も安心して業務につけるよう環境を整備した上で、利用者が医療的な支援が必要な状態になっても引き続き事業所で過ごしてもらえるよう努めている。また、利用者に家庭的な雰囲気の中で過ごしてもらえるよう、職員はユニフォームを揃えずケアにあたっており、共用スペースでは利用者と職員が穏やかな時間を過ごしている。職員は絶えず話し合いを重ねながら、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者本位のケアを提供したいと考え、実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしょうせきあいあい

(ユニット名) しょうちゃん

記入者(管理者)

氏名 村田佳乃

評価完了日 2015年7月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員の意見を総括した理念を作成し、ユニット入り口に掲載し、職員がいつでも確認できるようにしている。実現に向けて医療・介護が連携し、業務にあたるように努めている。	
			(外部評価) 法人の理念に基づき、毎年職員全員で話し合っってユニット毎の理念を作成し、ユニットの入り口に掲げている。職員は、利用者に寄り添い利用者本位に考えてケアすることを大切に考えており、決して職員の都合でケアを行わないことを戒めている。医療的な支援が必要な利用者が安心して過ごせるよう、医療、看護、介護の連携を大切にして実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの幼稚園の行事ごとや、地方祭には利用者ならびに職員が参加し、地域交流を深めている。近くの公園や川に散歩に行ったり、近所の理容店へでかけたりし、外出できない利用者には出張してもらったりしている。	
			(外部評価) 近隣の幼稚園や町内の方とのつながりを大切にしており、近くの食堂やパン屋の方とは日常的に交流がある。毎年、近所の方が竹トンボを作って寄贈してくれるので、幼稚園へ持って行って園児と一緒に竹トンボで遊ぶなどして交流している。地方祭ではおもてなしコーナーを作って近所の人をもてなしたり、敬老会では認知症をテーマにした演劇を披露して、認知症の理解を広めている。また、町内清掃に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、院長の医療講話を通じて、家族ならびに地域の方に、医療や介護への理解を深めていただくよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センターの職員、地域住民等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や課題について意見交換をするほか、一緒に試食会を行ったり、代表者が講話をしたりする工夫をしている。また、他のグループホームからの参加もあり、貴重な意見を聞くことができている。職員も交代で会議に参加し、サービスの質の向上に役立っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者、家族、近隣住民、民生委員、行政、地域包括支援センター職員の他、近隣の他事業所職員、母体診療所に通院中の方など、多くの人々が参加して2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告の他、参加者が希望するテーマで事業所職員が講師となって講話を行うなど活発な意見交換がされている。また、詳細な記録は職員で共有し、サービスの向上に活かしている。</p>	<p>他の事業所と比較して、関係機関以外の地域住民の参加が非常に多いことは、大いに評価できる。そうした人々が集まる会議の中で、緊急避難時の協力体制の整備等、更に具体的な課題の解決に向けた協議が行われることに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者や地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加していただき、事業所の報告や意見交換を行い、相談が気軽にできる関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 行政との連携については、日常的にある相談を、電話連絡だけで済ませるのではなく、市役所へ赴くことを心掛けており、顔の見える関係構築に努めている。また、運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員が参加しており、事業所の状況を報告し理解してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化により点滴等が必要な利用者には、安全面を考え拘束を行う場合があるが、利用者や家族の同意を得ている。また、拘束使用表にて拘束時間が短縮できるように十分配慮している。言葉での拘束についても職員全体で意識しながら適切な対応ができるよう努めている。職員は身体拘束の研修等にも参加し、研修の報告をするなど職員間で共有している。</p> <p>(外部評価) 職員は利用者の安全の確保と拘束しないケアの両立に悩みながらも、様々な工夫を行いながら一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。カテーテルを自分で抜いてしまうため、やむを得ずミトンを使用するケースもあるが、その際も、必要最小限となるよう眠っている間は外すようにしている。家族に説明し、書面で同意を得て定期的に見直すようにしている。また、言葉による拘束の勉強会を持ち、丁寧な言葉遣いに努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者第一の考えを職員に浸透させるように努め、職員同士が気を付け合い、虐待が起きないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には、身体障害手帳や生活保護の申請を積極的に行い、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、担当職員が利用者ならびに家族に重要事項説明し、納得していただいた上で契約の締結を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の訪問時に意見や要望を聞き取るように努めている。家族からの意見は少ないが些細なことでも対応するよう心がけている。また、聞き取った意見や要望は管理者や職員で話し合い、運営に反映されるよう努めている。 (外部評価) 意見箱の設置や運営推進会議に家族に参加してもらった際に意見を聞くよう努めている。管理者は、家族との信頼関係がなければ、同じ立ち位置に立てないと考えており、面会の時に意見や要望を聞き取るよう努めている。ボタンを飲み込もうとする利用者の様子を伝えると、遠方に住む家族が丸首の衣類を宅急便で送ってきたことがあり、家族の協力を得ながら共にケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の申し送り等で職員の意見を聞くよう努めている。職員が働きやすいようシフト組みにも配慮している。管理者と職員は気づきや提案を言いやすい関係を築きながら、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。 (外部評価) 管理者は、日々の申し送りや各ユニットで開催する月1回の定例会で職員の意見を聞くよう努めている。事業所では医療的処置を必要とする利用者が多いこともあり、必要に応じて緊急のミーティングを行うことも多く、そうすることで一人ひとりの利用者に対する注意事項を確認し合い、日々の生活を支援する介護職員の不安や負担軽減に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与査定を行い、職員個々の意欲向上を図っている。また、定期的なユニット異動でマンネリ化を防いでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 他施設の運営推進会議や、各種セミナーに参加したり、勉強会や日々の指導により自己のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等で、積極的に相互訪問の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学希望があれば積極的に受け入れ、施設内や日中の過ごし方を説明している。意見・要望を取り入れ、活かしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 個別の面談の際に、サービスを利用することになった経緯や事情、利用者の状態や生活の様子をしっかりと聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人ならびに家族との面談を通じて、必要としている支援を見極め、本人・家族からの要望についての話し合いを看護師、介護士らで行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の本人との会話を中心に、生活の場での知識や知恵を教えていただいたりと、家族のような関係を築いていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 年賀状で利用者の写真を家族へ送ったりし、ホームでの様子が家族に伝わるように工夫し、本人との絆を大切にさせていただくように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 事業所には友人や知人の訪問があり、職員は快く迎え入れをしている。利用者が馴染みの場所などに出かけられるよう家族の協力を得て支援している。また、利用者が知人に電話したり手紙を出せるよう支援する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) 個々の利用者を個別に希望の場所へ外出支援することは難しいのが現状であるが、面会は積極的に受け入れている。昔からの友人と、お互いに行き来して交流することが困難になってきている利用者には、電話で会話を楽しめるような支援を行うなど、関係を断つことがないように努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等で、多くの利用者が楽しめる機会をつくり、利用者同士で関わり合う時間を増やすよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 運営推進会議等を通じて、地域との連携を強め、サービス利用が終了しても、必要に応じて本人ならびに家族のフォローができるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりと向き合いながら、思いや希望を聞き取り、自然な暮らしが送れるよう支援をしている。また、日々の関わりの中で、職員から声かけをし、会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。あまり希望を出さない利用者には、職員が関わる時間を多く持ち理解するよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者の言葉の意味を深く考え、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に意向を確認するなど、出来る限り利用者の意向に沿えるよう努力している。法人代表者である主治医の方針もあり、利用者が食べたい物を食べられるよう、喫煙を希望する利用者には安全に喫煙できる環境を整える等の配慮を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からこれまでの暮らしについての情報を収集したり、以前利用していた施設等からの情報をもとに、本人のこれまでの暮らしを把握するように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やバイタル測定等で本人の心身状態を把握するよう努めている。また、普段と変わったところがあれば記録をとり、情報を職員間で共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) より良い暮らしが送れるように利用者や家族の意向を聞きながら計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。3か月に1回モニタリングを行い、評価をしている。管理者は職員の意見を聞き取りながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。 (外部評価) 職員は、利用者が少しでも笑顔になってもらえるよう、できることは継続してもらえよう支援したいと考え介護計画を作成している。利用者の状態が変わる度に職員で話し合い、現状にあったものに変更している。状態の変化がない場合は3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。記録に関しては、ケアプランを分かりやすく要約して介護記録に綴じたり、看取りの時期は経時的に記録する用紙に変えたりする等の工夫が見られ、全ての記録が大変丁寧に細かく書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子から会話や出来事を記録し、気付いたことを職員間で情報共有し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて一人一人の要望に応じていけるように、日々の関わり合いを心がけている。併設している小規模と合同レクや行事を行い、マンネリ化しないよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源を把握するため、幼稚園の行事や地方祭、町内総会に参加し、交流を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者全員は母体の診療所をかかりつけ医としてい る。緊急時には24時間体制で対応が可能で、利用者 は医療面で安心感がある。専門医は家族の協力を得て 受診することができる。また、家族が同行できない場 合は、職員が同行し、医師に利用者の状態の報告等 を行い、連携を図りながら支援している。 (外部評価) 利用者は母体の診療所をかかりつけ医としており、協 力医が毎日往診に来て診療や健康管理を行っている。 また、歯科医の往診を受けることもできる。専門医に 受診する際は、家族が付き添っているが、それが困難 な場合は職員が付き添うようにしている。事業所は2 4時間看護師が勤務しており、胃ろうや持続点滴を必 要とする利用者も受け入れて手厚い看護を行ってい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し、変化や異常があればバ イタル測定等を行い、看護師に状態を報告する。その 後、看護師より主治医に状態報告を行い、対応してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 医療機関と連携をとり、相談・情報交換等を行い、早 期退院に努めている。また、退院後も継続して療養で きる環境・人員を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業所では母体の診療所と協力をしながら積極的に看 取りに取り組んでいる。利用者の状態の変化の段階に 応じて、医師、家族、職員で話し合いを行い、利用者 や家族の希望に沿うよう事業所全体で支援している。事 業所の看護師が不在時には母体の診療所の看護師が対 応するなど、安心できる体制を整えている。 (外部評価) 事業所では24時間の看護体制をとっており、母体の 診療所と連携を密にとりながら積極的に看取りに取 組んでいる。他事業所から、看取りを希望して転居し て来る利用者もいる。利用者の状態の変化に応じて、 その都度、家族、医師、看護師、介護職員が話し合 い、協力して終末期ケアにあたっている。事業所 では、最期まで家族に看護られて過ごせるよう寝具や ベッドの提供を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を開き、医師や看護師にも参加してもらい、職員に対し指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。利用者の安全確保のため、職員全員で防災意識を高めるよう努めている。また、職員だけの避難誘導は限界があるため、さらなる防災対策を検討している。 (外部評価) AED使用法の講習や起震車での地震体験等、年4回の避難訓練を計画的に実施している。事業所が2階にあり、重度の利用者が多くなっている状況の中、少ない職員でどのように避難誘導を行うか検討を重ねている。災害対策の研修会に参加し、運営推進会議で報告を行い、住民の理解や協力が得られるよう働きかけている。また、水や食料等の備蓄品の確保もできている。	利用者の重度化が進む中、2階で居住している利用者を避難させることが困難になってきている。防災に努めると共に、災害時の避難方法について具体的な検討が早急に求められる。夜間等、職員のみでは限界もあり、今までに培われてきた地域住民との信頼関係を礎にして、協力体制が整えられることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者のプライドを傷つけないように声かけに注意している。排泄や入浴時に利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないよう配慮しながらケアに努めている。管理者は職員と話す機会を持ち、意識づけするよう努めている。 (外部評価) 入居者の羞恥心やプライバシーへの配慮として、トイレ誘導の際の声掛けを、大きな声を出さない等の気配りを行っている。一人ひとりを尊重し、敬いの心を持った関わりができるよう、新人介護職員への指導を行ったり、職員同士気付いた時に注意し合うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をどうしたいか、会話の中で希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の要望をしっかりと傾聴し、その人らしい生活のペースが保てるよう、可能な限り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節や天候に合った服を本人に確認しながら選ぶようにしている。また、本人が散髪を希望した場合は日時等調節し、希望を叶えられるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのメニューを取り入れ、利用者が楽しめる工夫をしている。医療面で支援の必要な利用者も、職員の見守る中笑顔で楽しく食事ができている。また、利用者の状態に合わせ調理法を変えて対応するなど、食事を楽しむことを大切にしている。	
			(外部評価) 1階の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で担当調理員が調理をしている。各ユニットで炊飯し、利用者の状態に応じた食事形態を工夫することで、入居時には口から食べられず胃ろうや持続点滴だったが、口から食べられるようになった利用者も多い。誕生日には好きな料理を作り、本格的手作りケーキでお祝いをしたり、そうめん流しやうなぎの蒲焼の行事食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量・水分量を記録し確認している。食事量、水分量が少ないようであれば、本人の好む物を家族に相談して用意してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後に口腔ケアを行っており、磨けているか職員が確認している。また、食事をされていない利用者も1日3回ブラッシングをしたりガーゼで口腔内を拭いたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々のトイレ回数、時間は記録をとり、排泄パターンを把握するよう努め、トイレ誘導をしている。 (外部評価) トイレは各ユニットに3か所設けられ、利用者が夜間でも使いやすいよう常時電気をつけているトイレもある。排泄の自立に向けた支援ができるよう、職員で話し合う機会が多い。看護師が中心になってリハビリを行うことで、立つことができるようになることでおむつが外れたり寝たきりの利用者がトイレで排泄が可能になるなど、改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れたり、利用者一人ひとりの排便回数、水分量、食事量を必ず記録している。排便のない日が続いた利用者には、主治医の指示で緩下剤を使用するなどし、便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週2回を基本として入浴することができるが、夏場など希望があれば別に入浴することができる。オムツを使用している利用者には、陰部洗浄を行うなど清潔を保てるよう心掛けている。入浴の苦手な利用者には時間をずらしたり声掛け等に工夫して気持ち良く入浴できるよう支援している。また、利用者に応じて同性介護の対応もしている。 (外部評価) 家庭浴槽に週2回、希望者は週3回入浴できるよう支援している。持続点滴を行っている重度の利用者にも入浴を楽しんでもらえるよう、看護師が付き添ってリクライニング車いすにビニールシートをかぶせてシャワー浴をする等の工夫を行っている。また、原則同性介助を行っているが、それができない場合は利用者と相談して入浴日を変更する等の配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転の方は日中の覚醒と活動を促したり、生活のリズムを把握し、良眠を支援できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を各利用者のファイルに保管し、いつでも用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、野球、相撲等の会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の重度化に伴い外出することは難しくなっているが、利用者ごとに個別の時間をとり近くの川へ鯉のエサやりや庭先に出て茶話会をするなど外出や外気に触れるよう支援している。事業所の前に移動販売のパン屋さんが来る日は利用者の楽しみとなっている。 (外部評価) 天気の良い日は近くの神社に散歩に出かけたり、馴染みのパン屋さんにパンをもらって川の鯉に餌やりに出かけている。重度の利用者が多く、利用者がそろって外出することは難しいが、梅、桜、ぼたん等の季節の花見物や動物園に遠出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は利用者の居室ではなく事務所で保管している。買い物等で現金が必要な場合は、その都度お渡しして、本人の希望等に使えるよう考慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を送ったり、本人に電話があった際は職員が取りつぎ、ゆっくり話ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングは車椅子が行き来できるような広い空間となっている。畳スペースもあるが、現在使用する利用者はいない。テレビは利用者様同士の会話や職員の関わりを多く持てるよう配慮して置かれていない。また、平行棒が置かれ、利用者の歩行機能を維持できるように訓練が行われている。</p> <p>(外部評価) 共用空間にはスタッフコーナー、対面式キッチン、食卓、畳コーナーがあり、利用者は歌を歌ったり、広告を見るなど思い思いに過ごすことができている。外来者が不快に感じることはないよう、消臭剤を使用して臭い対策を行ったり、念入りに清掃を行う日を設けている。また、空き空間に平行棒を設置して、日常的に運動ができるよう支援している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにテレビを置かず、職員が声掛けをし話題を提供したりレクリエーションをしたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れた椅子やタンス、ぬいぐるみ等が持ち込まれ居心地の良い空間となっている。また、家族との写真を飾るなど、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。</p> <p>(自己評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼット、椅子が備え付けられ、天井が和風天井になっている居室もあって、重介護の利用者が常に見上げる天井が、少しでも家庭の雰囲気に近いものになるように配慮されている。利用者はテレビやタンスを持ち込み、折り紙や塗り絵作品を飾ったり、家族写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの場所がわかるように紙に大きく書いて貼ったり、自分の部屋を認識しづらい利用者には付き添って部屋へ移動するなど、安全に配慮し、安心して暮らせるよう努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105784
法人名	医療法人 北吉田診療所
事業所名	グループホーム しょうせきあいあい
所在地	松山市南吉田町1872-2
自己評価作成日	平成27年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年8月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、主治医が毎日往診し、24時間看護師が常駐することで医療体制を充実させています。また、終身介護を前提とした運営を行っており、希望される場合は看取りも行います。細目にバイタル測定を行い、栄養バランスに気を配った食事を提供するなど、利用者一人ひとりの日々の健康管理を徹底し、利用者やご家族に安心をお届けできる施設を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所近くにある診療所の院長である法人代表者は、地域医療に大変積極的であり、事業所においても看取りの体制整備に力を入れている。看護師は24時間体制で常駐しており、介護職員も安心して業務につけるよう環境を整備した上で、利用者が医療的な支援が必要な状態になっても引き続き事業所で過ごしてもらえるよう努めている。また、利用者に家庭的な雰囲気の中で過ごしてもらえるよう、職員はユニフォームを揃えずケアにあたっており、共用スペースでは利用者と職員が穏やかな時間を過ごしている。職員は絶えず話し合いを重ねながら、利用者一人ひとりの思いを大切に、利用者本位のケアを提供したいと考え、実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしょうせきあいあい

(ユニット名) あいちゃん

記入者(管理者)

氏名 村田佳乃

評価完了日 2015年7月13日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員全員の意見を総括した理念を作成し、ユニット入り口に掲載し、職員がいつでも確認できるようにしている。実現に向けて医療・介護が連携し、業務にあたるように努めている。	
			(外部評価) 法人の理念に基づき、毎年職員全員で話し合ってユニット毎の理念を作成し、ユニットの入り口に掲げている。職員は、利用者に寄り添い利用者本位に考えてケアすることを大切に考えており、決して職員の都合でケアを行わないことを戒めている。医療的な支援が必要な利用者が安心して過ごせるよう、医療、看護、介護の連携を大切に実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭には利用者ならびに職員が参加し、地域交流を深めている。近くの公園や川に散歩に行ったり、近所の理容店へでかけたりし、外出できない利用者には出張してもらったりしている。	
			(外部評価) 近隣の幼稚園や町内の方とのつながりを大切にしており、近くの食堂やパン屋の方とは日常的に交流がある。毎年、近所の方が竹トンボを作って寄贈してくれるので、幼稚園へ持って行って園児と一緒に竹トンボで遊ぶなどして交流している。地方祭ではおもてなしコーナーを作って近所の人をもてなしたり、敬老会では認知症をテーマにした演劇を披露して、認知症の理解を広めている。また、町内清掃に職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、院長の医療講話を通じて、家族ならびに地域の方に、医療や介護への理解を深めていただくよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議は家族、民生委員、市担当者、地域包括支援センターの職員、地域住民等の参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や課題について意見交換をするほか、一緒に試食会を行ったり、代表者が講話をしたりする工夫をしている。また、他のグループホームからの参加もあり、貴重な意見を聞くことができている。職員も交代で会議に参加し、サービスの質の向上に役立っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者、家族、近隣住民、民生委員、行政、地域包括支援センター職員の他、近隣の他事業所職員、母体診療所に通院中の方など、多くの人々が参加して2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告の他、参加者が希望するテーマで事業所職員が講師となって講話を行うなど活発な意見交換がされている。また、詳細な記録は職員で共有し、サービスの向上に活かしている。	他の事業所と比較して、関係機関以外の地域住民の参加が非常に多いことは、大いに評価できる。そうした人々が集まる会議の中で、緊急避難時の協力体制の整備等、更に具体的な課題の解決に向けた協議が行われることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者や地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加していただき、事業所の報告や意見交換を行い、相談が気軽にできる関係を築いている。	
			行政との連携については、日常的にある相談を、電話連絡だけで済ませるのではなく、市役所へ赴くことを心掛けており、顔の見える関係構築に努めている。また、運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員が参加しており、事業所の状況を報告し理解してもらっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 重度化により点滴等が必要な利用者には、安全面を考え拘束を行う場合があるが、利用者や家族の同意を得ている。また、継続的にならないように十分配慮している。言葉での拘束についても職員全体で意識しながら適切な対応ができるよう努めている。職員は身体拘束の研修等にも参加し、研修の報告をするなど職員間で共有している。	
			(外部評価) 職員は利用者の安全の確保と拘束しないケアの両立に悩みながらも、様々な工夫を行いながら一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。カテーテルを自分で抜いてしまうため、やむを得ずミトンを使用するケースもあるが、その際も、必要最小限となるよう眠っている間は外すようにしている。家族に説明し、書面で同意を得て定期的に見直すようにしている。また、言葉による拘束の勉強会を持ち、丁寧な言葉遣いに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者第一の考えを職員に浸透させるように努め、職員同士が気を付け合い、虐待がおきないように注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 適応者には、身体障害手帳や生活保護の申請を積極的に行い、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、担当職員が利用者ならびに家族に重要事項説明し、納得していただいた上で契約の締結を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の訪問時に意見や要望を聞き取るように努めている。家族からの意見は少ないが些細なことでも対応するよう心がけている。また、聞き取った意見や要望は管理者や職員で話し合い、運営に反映されるよう努めている。	
			意見箱の設置や運営推進会議に家族に参加してもらった際に意見を聞くよう努めている。管理者は、家族との信頼関係がなければ、同じ立ち位置に立てないと考えており、面会の時に意見や要望を聞き取るよう努めている。ボタンを飲み込もうとする利用者の様子を伝えると、遠方に住む家族が丸首の衣類を宅急便で送ってきたことがあり、家族の協力を得ながら共にケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の申し送り等で職員の意見を聞くよう努めている。職員が働きやすいようシフト組みにも配慮している。管理者と職員は気づきや提案を言いやすい関係を築きながら、利用者本位のケアが実践できるよう努めている。	
			(外部評価) 管理者は、日々の申し送りや各ユニットで開催する月1回の定例会で職員の意見を聞くよう努めている。事業所では医療的処置を必要とする利用者が多いこともあり、必要に応じて緊急のミーティングを行うことも多く、そうすることで一人ひとりの利用者に対する注意事項を確認し合い、日々の生活を支援する介護職員の不安や負担軽減に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与査定を行い、職員個々の意欲向上を図っている。また、定期的なユニット異動でマンネリ化を防いでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 他施設の運営推進会議や、各種セミナーに参加したり、勉強会や日々の指導により自己のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議等で、積極的に相互訪問の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 見学希望があれば積極的に受け入れ、施設内や日中の過ごし方を説明している。意見・要望を取り入れ、活かしていくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 個別の面談の際に、サービスを利用することになった経緯や事情、利用者の状態や生活の様子をしっかりと聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人ならびに家族との面談を通じて、必要としている支援を見極め、本人・家族からの要望についての話を看護師、介護士らで行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 普段の本人との会話を中心に、生活の場での知識や知恵を教えていただいたりと、家族のような関係を築いていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 年賀状で利用者の写真を家族へ送ったりし、ホームでの様子が家族に伝わるように工夫し、本人との絆を大切にしていだくように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 事業所には友人や知人の訪問があり、職員は快く迎え入れをしている。利用者が馴染みの場所などに出かけられるよう家族の協力を得て支援している。また、利用者が知人に電話したり手紙を出せるよう支援する等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。 (外部評価) 個々の利用者を個別に希望の場所へ外出支援することは難しいのが現状であるが、面会は積極的に受け入れている。昔からの友人と、お互いに行き来して交流することが困難になってきている利用者には、電話で会話を楽しめるような支援を行うなど、関係を断つことがないよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等で、多くの利用者が楽しめる機会をつくり、利用者同士で関わり合う時間を増やすよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 運営推進会議等を通じて、地域との連携を強め、サービス利用が終了しても、必要に応じて本人ならびに家族のフォローができるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりと向き合いながら、思いや希望を聞き取り、自然な暮らしが送れるよう支援をしている。また、日々の関わりの中で、職員から声かけをし、会話の中から思いや意向を把握するよう努めている。あまり希望を出さない利用者には、職員が関わる時間を多く持ち理解するよう努めている。 (外部評価) 職員は利用者の言葉の意味を深く考え、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族に意向を確認するなど、出来る限り利用者の意向に沿えるよう努力している。法人代表者である主治医の方針もあり、利用者が食べたい物を食べられるよう、喫煙を希望する利用者には安全に喫煙できる環境を整える等の配慮を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族からこれまでの暮らしについての情報を収集したり、以前利用していた施設等からの情報をもとに、本人のこれまでの暮らしを把握するよう努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の対話やバイタル測定等で本人の心身状態を把握するよう努めている。また、普段と変わったところがあれば記録をとり、情報を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) より良い暮らしが送れるように利用者や家族の意向を聞きながら計画作成担当者を中心に話し合い、介護計画を作成している。3か月に1回モニタリングを行い、評価をしている。管理者は職員の意見を聞き取りながら、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者が少しでも笑顔になってもらえるよう、できることは継続してもらえよう支援したいと考え介護計画を作成している。利用者の状態が変わる度に職員で話し合い、現状にあったものに変更している。状態の変化がない場合は3か月に1回モニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。記録に関しては、ケアプランを分かりやすく要約して介護記録に綴じたり、看取りの時期は経時的に記録する用紙に変えたりする等の工夫が見られ、全ての記録が大変丁寧に細かく書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子から会話や出来事を記録し、気付いたことを職員間で情報共有し、介護計画の見直しに役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて一人一人の要望に応じていけるように、日々の関わり合いを心がけている。併設している小規模と合同レクや行事を行い、マンネリ化しないよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域資源を把握するため、地方祭や町内総会に参加し、交流を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者全員は母体の診療所をかかりつけ医としている。緊急時には24時間体制で対応が可能で、利用者は医療面で安心感がある。専門医は家族の協力を得て受診することができる。また、家族が同行できない場合は、職員が同行し、医師に利用者の状態の報告等を行い、連携を図りながら支援している。	
			(外部評価) 利用者は母体の診療所をかかりつけ医としており、協力医が毎日往診に来て診療や健康管理を行っている。また、歯科医の往診を受けることもできる。専門医に受診する際は、家族が付き添っているが、それが困難な場合は職員が付き添うようにしている。事業所は24時間看護師が勤務しており、胃ろうや持続点滴を必要とする利用者も受け入れて手厚い看護を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 利用者の日常の状態を把握し、変化や異常があればバイタル測定等を行い、看護師に状態を報告する。その後、看護師より主治医に状態報告を行い、対応している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携をとり、相談・情報交換等を行い、早期退院に努めている。また、退院後も継続して療養できる環境・人員を整えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では母体の診療所と協力をしながら積極的に看取りに取り組んでいる。利用者の状態の変化の段階に応じて、医師、家族、職員で話し合いを行い、利用者や家族の希望に沿うよう事業所全体で支援している。事業所の看護師が不在時には母体の診療所の看護師が対応するなど、安心できる体制を整えている。	
			(外部評価) 事業所では24時間の看護体制をとっており、母体の診療所と連携を密にとりながら積極的に看取りに取り組んでいる。他事業所から、看取りを希望して転居して来る利用者もいる。利用者の状態の変化に応じて、その都度、家族、医師、看護師、介護職員が話し合い、協力して終末期ケアにあたっている。事業所では、最期まで家族に看護られて過ごせるよう寝具やベッドの提供を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を開き、医師や看護師にも参加してもらい、職員に対し指導している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。利用者の安全確保のため、職員全員で防災意識を高めるよう努めている。また、職員だけの避難誘導は限界があるため、さらなる防災対策を検討している。 (外部評価) AED使用法の講習や起震車での地震体験等、年4回の避難訓練を計画的に実施している。事業所が2階にあり、重度の利用者が多くなっている状況の中、少ない職員でどのように避難誘導を行うか検討を重ねている。災害対策の研修会に参加し、運営推進会議で報告を行い、住民の理解や協力が得られるよう働きかけている。また、水や食料等の備蓄品の確保もできている。	利用者の重度化が進む中、2階で居住している利用者を避難させることが困難になってきている。防災に努めると共に、災害時の避難方法について具体的な検討が早急に求められる。夜間等、職員のみでは限界もあり、今までに培われてきた地域住民との信頼関係を礎にして、協力体制が整えられることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は利用者のプライドを傷つけないように声かけに注意している。排泄や入浴時に利用者の誇りやプライバシーを損なうことがないように配慮しながらケアに努めている。管理者は職員と話す機会を持ち、意識づけするよう努めている。 (外部評価) 入居者の羞恥心やプライバシーへの配慮として、トイレ誘導の際の声掛けを、大きな声を出さない等の気配りを行っている。一人ひとりを尊重し、敬いの心を持った関わりができるよう、新人介護職員への指導を行ったり、職員同士気付いた時に注意し合うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 何をどうしたいか、会話の中で希望を伺い、選択できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人一人の要望をしっかりと傾聴し、その人らしい生活のペースが保てるよう、可能な限り支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節や天候に合った服を選ぶようにしている。また、本人が散髪を希望した場合は日時等調節し、希望を叶えられるよう努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みのメニューを取り入れ、利用者が楽しめる工夫をしている。医療面で支援の必要な利用者も、職員の見守る中笑顔で楽しく食事ができている。また、利用者の状態に合わせて調理法を変えて対応するなど、食事を楽しむことを大切にしている。	
			(外部評価) 1階の小規模多機能型居宅介護事業所の厨房で担当調理員が調理をしている。各ユニットで炊飯し、利用者の状態に応じた食事形態を工夫することで、入居時には口から食べられず胃ろうや持続点滴だったが、口から食べられるようになった利用者も多い。誕生日には好きな料理を作り、本格的手作りケーキでお祝いをしたり、そうめん流しやうなぎの蒲焼の行事食も利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日食事量・水分量を記録し確認している。食事量、水分量が少ないようであれば、本人の好む物を家族に相談して用意してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1日3回食後に口腔ケアを行っており、磨けているか職員が確認している。また、食事をされていない利用者も1日3回ガーゼで口腔内を拭いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 個々のトイレ回数、時間は記録をとり、排泄パターンを把握するよう努め、トイレ誘導をしている。</p> <p>(外部評価) トイレは各ユニットに3か所設けられ、利用者が夜間でも使いやすいよう常時電気をつけているトイレもある。排泄の自立に向けた支援ができるよう、職員で話し合う機会は多い。看護師が中心になってリハビリを行うことで、立つことができるようになることでおむつが外れたり寝たきりの利用者がトイレで排泄が可能になるなど、改善された利用者も多い。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) メニューに野菜を多く取り入れたり、利用者一人ひとりの排便回数、水分量、食事量を必ず記録している。排便のない日が続いた利用者には、主治医の指示で緩下剤を使用するなどし、便秘予防に努めている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 基本的に週2回を基本として入浴することができ、夏場は希望に応じて3回にしている。オムツを使用している利用者には、陰部洗浄を行うなど清潔を保てるよう心掛けている。入浴の苦手な利用者には時間をずらしたり声掛け等に工夫して気持ち良く入浴できるよう支援している。また、利用者に応じて同性介護の対応もしている。</p> <p>(外部評価) 家庭浴槽に週2回、希望者は週3回入浴できるよう支援している。持続点滴を行っている重度の利用者にも入浴を楽しんでもらえるよう、看護師が付き添ってリクライニング車いすにビニールシートをかぶせてシャワー浴をする等の工夫を行っている。また、原則同性介助を行っているが、それができない場合は利用者と相談して入浴日を変更する等の配慮をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 昼夜逆転の方は日中の覚醒と活動を促したり、生活のリズムを把握し、良眠を支援できるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の説明書を各利用者のファイルに保管し、いつでも用法、用量、副作用等が確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員と一緒に洗濯物をたたんでいただいたり、野球、相撲等の会話を楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の重度化に伴い外出することは難しくなってきたが、利用者ごとに個別の時間をとり近くの川へ鯉のエサやりや庭先に出て茶話会をするなど外出や外気に触れるよう支援している。事業所の前に移動販売のパン屋さんが来る日は利用者の楽しみとなっている。	
			天気の良い日は近くの神社に散歩に出かけたり、馴染みのパン屋さんにパンをもらって川の鯉に餌やりに出かけている。重度の利用者が多く、利用者がそろって外出することは難しいが、梅、桜、ぼたん等の季節の花見物や動物園に遠出することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金は利用者の居室ではなく事務所で保管している。買い物等で現金が必要な場合は、その都度お渡しして、本人の希望等に使えるよう考慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を送ったり、本人に電話があった際は職員が取りつぎ、ゆっくり話ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングは車椅子が行き来できるような広い空間となっている。畳スペースもあるが、現在使用する利用者はいない。テレビは利用者様同士の会話や職員の関わりを多く持てるよう配慮して置かれていない。また、平行棒が置かれ、利用者の歩行機能を維持できるように訓練が行われている。	
			(外部評価) 共用空間にはスタッフコーナー、対面式キッチン、食卓、畳コーナーがあり、利用者は歌を歌ったり、広告を見るなど思い思いに過ごすことができている。外来者が不快に感じることがないように、消臭剤を使用して臭い対策を行ったり、念入りに清掃を行う日を設けている。また、空き空間に平行棒を設置して、日常的に運動ができるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングにテレビを置かず、職員が声掛けをし話題を提供したりレクリエーションをしたりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられている。利用者が使い慣れた椅子やタンス、ぬいぐるみ等が持ち込まれ居心地の良い空間となっている。また、家族との写真を飾るなど、利用者が落ち着いて生活できるよう配慮されている。	
			居室はベッド、エアコン、クローゼット、椅子が備え付けられ、天井が和風天井になっている居室もあって、重介護の利用者が常に見上げる天井が、少しでも家庭の雰囲気に近いものになるように配慮されている。利用者はテレビやタンスを持ち込み、折り紙や塗り絵作品を飾ったり、家族写真を飾って居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所がわかるように紙に大きく書いて貼ったり、自分の部屋を認識しづらい利用者には付き添って部屋へ移動するなど、安全に配慮し、安心して暮らせるよう努めている。	